



Title	『春日社司祐範記』連歌年表
Author(s)	川崎, 佐知子
Citation	詞林. 2004, 36, p. 42-58
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/67527
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

『春日社司祐範記』連歌年表

川崎 佐知子

『春日社司祐範記』は、南都春日社の社家、東地井祐範（元和九年（一六三三）八十二歳で没）の日記である。現在、春日大社と、国立公文書館内閣文庫（興福寺大乗院旧蔵）に、祐範自筆本が蔵される。現存本のうち、最古は慶長三年記であるが、そのほかは、祐範が正預に就任した慶長四年（一五九九）以降の記録である。当時の春日社神官は、神主・正預・若宮神主の三惣官を頂点とする職制下にあった。よって、『春日社司祐範記』は、正預という一社を代表する立場から書かれた社務日記であるといえよう。他方、祐範は、連歌をよくし、紹巴とも交流があった。そのためか、文芸全般に関心を示し、『春日社司祐範記』に書き留めている。この点は、同記のもう一つの特徴に数えてよいだろう。

さきに、俳文学会第五十五回全国大会（平成十五年十月十八日・十九日・二十日、於佐渡島開発総合センター）で、「慶長期南都連歌壇の様相」と題する口頭発表の機会を得た。『春日社司祐範記』に見いだせる連歌興行の記事を検討し、南都連歌壇の構成と、同記の資料的価値を論じたのであり、これに

ついては、べつに報告する予定である。本稿は、『春日社司祐範記』から、連歌を中心に、和歌、茶湯、古典籍の書写など、ひろく文芸に関する記事を拾い上げ、年代順に排列したものである。ただし、連歌壇の構成を明示することをも目的としたため、主要な作者の交流や、死没の記述など、厳密には、文芸的活動にあたらぬ記事を含めた場合もある。なお、芸能に関しては、宮本圭造氏「南都禰宜衆の演能活動——もう一つの能楽史——」（『芸能史研究』第一三八・一三九・一四〇号 平成九年・十年）、同氏「南都禰宜衆演能年表」（『芸能史研究』第一四二号 平成十年七月）、同氏「江戸初期奈良能楽界の動向」（『演劇学論叢』創刊号 平成十年十月）にしたがうこととし、本稿では省略した。

春日社家の人名は、大東延篤氏『新修春日社司補任記』（春日宮本会 昭和四十七年）に基づき、比定した。年齢も同様に確認し、初出時に、人名とともにアラビア数字で示した。このほか、石川真弘氏「興福寺関係連歌年表——紹巴時代——」（『大谷女子大國文』第十八号 昭和六十三年三月）や、『春日大

社年表』(春日大社 平成十五年)など、多くの先行研究より、学恩を蒙った。

『春日社司祐範記』の解説は、春日大社で行われている『春日社司祐範記』輪読会の成果に拠る。貴重な資料の調査閲覧につき、春日大社、および、国立公文書館内閣文庫より、格別なご配慮をいただいた。ここに記して深謝申し上げる。

慶長三年(一五九八) 祐範、五十七歳

興福寺／寺務 一乗院尊政・権別当 修南院光助

春日社三惣官／神主 中西時盛・正預 東地井祐父・若

宮神主 千鳥祐紀

二月四日 一乗院尊政36、社頭にて夢想連歌興行。

三月十八日力(欠損) 春日社中月次連歌。頭役祐範。

七月三日 連歌興行あり。祐範出座。

九月十三日ヨリ 一乗院尊政准后宣下のため千句連歌興行。

第十発句「紅葉」祐範「山たかみ四方のかざしの紅葉哉」。

九月十六日 千句連歌成就答礼に、一乗院尊政の使者中沼左

京元知、祐範へ来臨。

十月廿五日 春日社中月次連歌。頭役中西時久22。

十一月六日 郡山城主増田長盛連歌興行に、祐範、宗具、寿

閑、紹九、行弘、郡山下向。

十二月九日 祐範、中東時広42次男を養子とする。烏帽子着

あり。祐長7と名付。

十二月十日 中東時広にて、子息時昌12元服の振舞あり。

慶長五年(一六〇〇) 祐範、五十九歳

興福寺／寺務 一乗院尊政・権別当 修南院光助

春日社三惣官／神主 中西時盛・正預 東地井祐範・若

宮神主 千鳥祐紀

正月十三日 大乘院義尋より、正月十五日連歌興行のため、

祐範へ発句の命あり。

正月十四日 大乘院義尋、多聞院を使者として、祐範に正月

十五日の発句を催促。発句祐範「池の水の底も木ぶかき柳哉」。脇句大乘院義尋「かすむかたへはのどかなる山」。

正月十五日 大乘院義尋連歌興行。

正月十六日 一乗院尊政にて連歌あり。発句祐範「下草もう

るはひ出る雪間哉」。脇句一乗院尊政「野ははるぐとかすむ深水」。

正月十八日 春日社中月次連歌。発句祐範「春にあふ生さき

遠き小松哉」。

正月廿日 宗具の月次連歌会始。

正月廿五日 奈良代官井上源五、祈禱三百韻連歌興行。一乗

院尊政、大乘院義尋御成。連衆、松林院実政、覚情上人玄桂、祐範、町衆少々。御相伴に、覚情上人玄桂、祐範、井

上四郎兵衛、井上伝吉(井上源五子息)。

二月廿五日 春日社中月次連歌。頭役中東時広。二月十八日

延引分。

三月五日 正真院経長15にて庭前花盛の振舞あり。覚情上人玄桂、中東時広・時昌、千鳥祐紀19、新薬師奥坊、学順房、祐範等参会。

三月十八日 春日社中月次連歌。頭役正真院経長。

五月十八日 春日社中月次連歌。頭役今西祐途26。四月は延引。

五月廿二日 一乗院尊政月次二百韻連歌。

五月廿三日 千鳥祐紀、父祐根十三回追善を催す。祐範、三首歌を送る。

五月廿五日 井上源五、中坊にて四百韻連歌興行。一乗院尊政御成。大乘院義尋は煩養生在京のため御成なし。亭主井上源五も医療上洛のため不在。子息伝吉馳走。

五月廿九日 雑司弥七郎にて後園蓮花盛の振舞あり。祐範、覚情上人玄桂、中東時広等参会。小鼓少右衛門丞、大鼓久左衛門一番あり。弥七郎子息与一郎の大鼓、奇特。

六月五日 北郷柵宜野田久左衛門の振舞あり。祐範、中東時広、若宮右馬允(春能)、弥七郎参会。

六月十三日 一乗院尊政月次。頭役中沼左京元知。

六月十八日 春日社中月次連歌。頭役中西時久。

六月廿五日 一乗院尊政月次。頭役宝光院禅舜房(興福寺五師、祐範弟)。連衆、覚情上人玄桂、中東時広、千鳥祐紀、祐範。

七月十八日 春日社中月次連歌。頭役新祐久54。

八月十八日 春日社中月次連歌。頭役向井師隆31。

九月十三日 若宮右馬允にて壺口切あり。中東時広、正真院経長、祐範参会。

九月十八日 春日社中月次連歌。頭役西師治37。

十月二日 喜多院空実(祐範の歌道師匠)廿五回追善あり。

十月十八日 春日社中月次連歌。頭役祐範。

十月廿五日 宝光院禅舜房死去(五十七歳)。

十一月十九日 松林院実政連歌興行。一乗院尊政御成。

十一月廿一日 宗治祈禱連歌興行。発句祐範「雪はれて山さだかなるあした哉」。

十二月十九日 東北院に一乗院尊政御成、茶湯あり。御相伴に、覚情上人玄桂、中沼左京元知、祐範。

十二月廿一日 祐範、十二月十九日答礼に東北院へ祇候。御兄様に梅花・水仙を進上。

慶長六年(一六〇二)東地井祐範、六十歳

興福寺/寺務 一乗院尊政・権別当 修南院光助
春日社三惣官/神主 中西時盛・正預 東地井祐範・若宮神主 千鳥祐紀

正月十八日 春日社中月次連歌会始。発句祐範「山／＼に霞をおほふ春日哉」。

正月廿五日 一乗院尊政月次連歌。

正月廿七日 大乘院義尋連歌興行。発句祐範「庭の松かすむ

は春の太山かな」。

正月廿九日 宗具月次連歌。

二月三日 宗具月次連歌。頭役祐範。紹巴より看下着のため
振舞あり。城戸衆、珍肴持参。

二月十八日 春日社中月次連歌。頭役千鳥祐紀。

三月十八日 春日社中月次連歌。頭役覚情上人玄桂。

三月十四日 東地井祐長（十歳）学問始。

四月十九日 一乘院尊政月次連歌。

四月廿六日 松林院実政、初めて歌会を沙汰。人数、覚情上

人玄桂、中東時広・時昌、今西祐途、千鳥祐紀、正真院経
長、宗具、祐範。出題松林院実政、兼題二首、当座十首。

五月十八日 春日社中月次連歌延引。

五月廿六日 春日社中月次連歌。五月十八日延引分。頭役、

大東延通²¹。

五月廿八日 一乘院尊政、六月一日の月次連歌始の脇句を祐

範に命ず。発句一乘院尊政「おくふかき陰やもらでも氷室
山」。脇句祐範「夏の日とをみしげる松杉」。

六月一日 一乘院尊政月次連歌。

七月廿五日 春日社中月次連歌。頭役中東時広。執筆中東時

昌。六月延引分。

八月十五日 一乘院尊政連歌興行。発句一乘院尊政「秋風の
月の名そふる雲ゐ哉」。脇句祐範「いな葉のつゞくをちこ
ちの山」。

八月十八日 春日社中月次連歌。頭役今西祐途。

九月十八日 春日社中月次連歌。頭役新時久。

十月二日 一乘院尊政にて瓦崎喜介入道宗一連歌興行。発句
一乘院尊政。

十月十八日 春日社中月次連歌。頭役正真院経長。

十月廿四日 宝光院禅舜房一回追善あり。この日、紹意発起
により、祐範、源氏物語講釈を始める。

十月廿五日 一乘院尊政にて中沼左京元知夢想連歌興行。

十月廿九日 宗具にてサツマヤ有俊母の追善連歌興行。

十一月三日 蓮成院陽教房に一乘院尊政御成、茶湯、連歌あ
り。

十一月十二日 一乘院尊政、春日社杉屋にて月次連歌興行。

発句千鳥祐紀。

十一月十八日 春日社中月次連歌延引。

閏十一月十八日 春日社中月次連歌延引。

閏十一月十九日 喜多院空慶に、覚情上人玄桂、中東時広、
千鳥祐紀、正真院経長、成林坊、祐範祇候。連歌一折あり。

発句祐範「問人の後さへふかし雪の庵」。

閏十一月廿五日 春日社中月次連歌。頭役向井師隆。

慶長七年（一六〇二）東地井祐範、六十一歳

興福寺／寺務 一乘院尊政・権別当 修南院光助

春日社三惣官／神主 中西時盛・正預 東地井祐範・若

宮神主 千鳥祐紀

正月十八日 春日社中月次連歌。頭役祐範。発句祐範「草
ぐの花の種みるわか葉哉」。神人治部永世出座。

正月廿五日 宗具月次連歌。

正月廿六日 一乘院尊政月次連歌。

正月晦日 常如院香賢房月次連歌興行。一乘院尊政御成。

二月十八日 春日社中月次連歌。頭役西師治。

二月廿五日 宗具にて菅丞相七百年忌の一会あり。祐範は出
座せず。

三月十八日 春日社中月次連歌。頭役千鳥祐紀。

三月十九日 一乘院尊政にて、紹意発起により連歌興行。発
句一乘院尊政。

三月廿五日 千鳥祐紀連歌興行。発句祐範。宗治より鯉等到
来。

四月十八日 春日社中月次連歌。頭役覚情上人玄桂。

四月十九日 祐範、内膳月次に発句を遣る。発句祐範「露け

さは虫も鳴いでん夏野哉」。巻頭一乘院尊政。

五月十三日 雑司弥七郎子息与七郎、文台新調開の一会興行。
発句祐範「夏草におもふころの花野哉」。

五月十六日 興福寺新五師の窪転経院延宗房へ、一乘院尊政
御成。金春父子芸能あり。

五月十八日 春日社中月次連歌。頭役大東延通。

六月十八日 春日社中月次連歌。頭役中東時広。

七月十八日 春日社中月次連歌。頭役今西祐途。

七月廿二日 宗具にて月次衆、紹巴追善連歌興行。発句祐範
「うづもれぬ流れずしき苔地哉」。紹巴は四月十二日、中
風再発のため七十九歳で逝去。

七月廿六日 おかや甚介入道宗叔連歌興行。発句祐範「咲つ
くもむべなる花の千種哉」。連衆、松林院実政、覚情上人
玄桂等。執筆彦六（宗叔子息）。

八月三日 祐範、覚情上人玄桂、千鳥祐紀、金勝院にて明恵
上人御筆一軸等を拝見。

八月十五日 覚情上人玄桂にて、明恵上人御筆跡等を拝見。

八月十八日 春日社中月次連歌。頭役新時久。

八月廿五日 宗具月次連歌。頭役宗叔。

九月十八日 春日社中月次連歌。頭役正真院経長。

九月十九日 三十八所参籠衆の所望で、祐範、中臣祓講积。

九月廿三日 妙徳院にて堯恩房連歌興行。一乘院尊政御成。

九月廿六日 蓮成院陽教房に一乘院尊政御成。茶湯、風呂あ
り。金剛大夫（弥二）祇候、音楽あり。

十月五日 若宮右馬允にて壺口切あり。覚情上人玄桂、宗具、
祐範参会。

十月十八日 春日社中月次連歌。頭役向井師隆。

十月廿三日 宝光院禅舜房三回追善あり。

十月廿四日 宗具にて宝光院禅舜房追善連歌興行。発句祐範

「おしまれしかた枝まづちる紅葉哉」。

十一月十六日 春日社中月次連歌。発句祐範「降ほどはたま

らぬ雪の冬木哉」。十一月十八日に辰市祐員12拝賀のため繰上。

十一月十九日廿日 安範所望により、祐範、百人一首講釈。

十二月十日 中東時広にて、口切あり。覚情上人玄桂、千鳥

祐紀、大東延通、正真院経長、祐範参会。

慶長八年（一六〇三） 東地井祐範、六十二歳

興福寺／寺務 一乗院尊政・権別当 修南院光助

春日社三惣官／神主 中西時盛・正預 東地井祐範・若

宮神主 千鳥祐紀

正月十八日 春日社中月次連歌始。発句祐範「さくやこの花の香よりの時津風」。

正月廿五日 一乗院尊政連歌興行。奈良代官大久保十兵衛長安祈禱のため。発句一乗院尊政「春の日のひかりそひけり朝霞」。脇句祐範「いく千里まで鶯のこゑ」。

正月廿八日 喜多院空慶にて茶湯あり。覚情上人玄桂、正真院経長、祐範、祢宜久左衛門祇候。連歌一折あり。発句祐範「梅がゝにおもふはもとの垣ね哉」。脇句喜多院空慶「春ごとにしもきなく鶯」。

二月廿五日 春日社中月次連歌。頭役千鳥祐紀。二月十八日延引分。

二月廿七日 紹意連歌興行。祐範一筆源氏物語書写成就のため。発句祐範「かく跡やなを塵ひぢの花の庭」。

二月廿八日 千鳥祐紀にて庭前花見の振舞あり。覚情上人玄

桂、祐範ほか五、六人参会。

三月十八日 春日社中月次連歌。頭役覚情上人玄桂。

三月廿二日 祐範にて庭前牡丹花見あり。今西祐途、富田延実、千鳥祐紀、神人治部永世参会。

三月廿三日 松林院実政連歌興行。祐範、町衆十人余祇候。

四月十一日 祐範にて庭前芍薬盛の振舞あり。富田延実、今西祐途、千鳥祐紀、正真院経長参会。

四月十八日 春日社中月次連歌。頭役大東延通。

四月廿五日 一乗院尊政当座二十首歌会。祐範二首詠。

五月十八日 祐範連歌一折興行。春日社中月次連歌は延引。

五月廿五日 一乗院尊政歌会、懷紙一首（題「雨中早苗」、当座廿首あり。覚情上人玄桂、千鳥祐紀、大東延通、祐範祇候。

六月一日 一乗院尊政月次百韻連歌初会。

六月十六日 雑司弥七郎にて蓮花盛の振舞あり。覚情上人玄桂、祐範参会。

六月十七日 一乗院尊政月次連歌。頭役松林院実政。

六月十八日 祐範、四十四句連歌を沙汰。発句覚情上人玄桂。連衆、祐範、今西祐途、大東延通、千鳥祐紀、正真院経長、奥家綱。執筆春勝（東地井祐長の幼名）。

六月廿一日 一乗院尊政月次連歌。頭役堯恩房。覚情上人玄桂、千鳥祐紀、大東延通、祐範祇候。

六月廿五日 一乗院尊政歌会。懷紙二首、当座廿首。祐範、

当座二首詠。

六月廿九日 祐範にて称名寺夢想連歌興行。宗治出座。

七月十九日 宗淑妻追善三吟あり。連衆、覚情上人玄桂、宗具、祐範。

七月廿八日 一乗院尊政歌会、懷紙二首、当座廿首あり。頭役称名寺。

八月五日 一乗院尊政、新造開連歌興行。発句一乗院尊政「をく露も色なる草の垣は哉」。脇句祐範「虫のねみだれ月になる庭」。連衆、松林院実政、覚情上人玄桂、千鳥祐紀、宗具、永春、中沼左京元知。

八月廿五日 一乗院尊政歌会、懷紙二首、当座廿首あり。頭役祐範。

九月十八日 春日社中月次連歌。頭役今西祐途。松林院実政出座。

九月廿五日 一乗院尊政歌会。頭役千鳥祐紀。

十月六日〜十日 各々所望により、祐範、伊勢物語講釈。

十月七日 一野院へ紅葉見物。祐範、宗具、有俊、永春、宗治、玄左、宗叔参会。

十月十六日 宗治夢想連歌興行に祐範出座。

十月廿五日 蓮成院陽教房新坊を建立(号延寿院)のため一乗院尊政御成、歌会あり。懷紙(題「庭松契久」)、当座廿首。人数、松林院実政、常如院香賢房、堯恩房、祐範、中東時広、千鳥祐紀、大東延通、中東時昌、覚情上人玄桂、

称名寺、一乗院門跡御内衆等廿人。読上役千鳥祐紀。

十一月八日 覚情上人玄桂、晚飯振舞あり。今西祐途、正真院経長、千鳥祐紀、祐範参会。茶あり。同日夜半、妙徳院死去。

十一月十六日 春勝(東地井祐長、十二歳)元服。

十二月四日 雜司弥七郎にて座敷開の茶湯あり。中東時広、

千鳥祐紀、今西祐途、祐範、覚情上人玄桂参会。

十二月十四日 雜司弥左衛門にて座敷開の茶湯あり。千鳥祐紀、今西祐途、祐範、覚情上人玄桂参会。

十二月十六日 新薬師奥坊にて口切茶一服あり。覚情上人玄桂、千鳥祐紀、北坊、祐範参会。

十二月十八日 成林坊にて東林院僧正追善連歌興行。

十二月十九日 北郷祢宜野田久左衛門にて茶湯あり。

十二月廿四日 大東延通子息(延貞、三歳)烏帽子着あり。

十二月廿六日 金剛、子息金太郎烏帽子着につき来臨。祖父加右衛門も同道。一曲舞あり。

慶長九年(一六〇四) 東地井祐範、六十三歳

興福寺／寺務 一乗院尊政・権別当 修南院光助

春日社三惣官／神主 中西時盛・正預 東地井祐範・若

宮神主 千鳥祐紀

正月十八日 春日社中月次連歌。発句祐範「乱ても風の音なき柳哉」。松林院実政出座。

正月廿五日 一乗院尊政月次歌会。頭役大東延通。

二月十八日 春日社中月次連歌。頭役大東延通。

二月廿五日 一乘院尊政歌会、懷紙一首、当座廿首あり。

二月廿六日 一乘院尊政連歌興行。

三月十一日 千鳥祐紀にて花見酒宴あり。当所（祐範）衆、

中時家・時重19父子、大東延通参会。

三月十六日十七日 菩提山にて覚情上人玄桂灌頂執行。

三月廿八日 松林院実政より春日社中月次衆に振舞あり。連

歌一会あり。発句松林院実政。

四月十四日 各々夏中の稽古所望により、祐範、連歌興行。

四月十八日 正真院家棟上のため、春日社中月次連歌延引。

四月廿五日 一乘院尊政歌会。頭役中東時昌。

四月廿九日 一乘院尊政二百韻連歌興行。第一百韻発句一乘

院尊政「茂りそひて猶枝たる、柳哉」。第二百韻発句祐範

「郭公こゑめでたなる雲る哉」。禁中千句興行成就、一乘院

尊政発句のため。

五月廿日 一乘院尊政月次連歌。

五月廿三日 千鳥祐紀、父祐根十七回作善を沙汰。

五月廿五日 一乘院尊政歌会。頭役奥家綱。

六月十四日 祐範にて神人市介連歌興行。祈禱立願のため。

六月十八日 春日社中月次連歌。頭役中東時昌。

六月廿六日 中殿にて祐範独吟百韻連歌を沙汰。檀那衆祈禱

のため。発句祐範「さざれ石岩ほにすゞし庭の杜」。

六月廿八日 雑司与七郎にて蓮花盛の連歌一会興行。発句祐

範「水きよみ底さへ花の蓮哉」。

七月十二日 松林院実政に一乘院尊政御成、連歌興行。

七月十四日 祐範にて夕飯振舞あり。覚情上人玄桂、中東時

広参会。晚、千鳥祐紀の鞠見物。鞠場にて酒宴あり。

七月十五日 今西祐途にて晩飯振舞あり。覚情上人玄桂、祐

範参会。鞠見物あり。鞠場にて酒宴あり。

七月十八日 春日社中月次連歌。頭役祐範。発句祐範「鹿の

ねをわが山もとの夕哉」。

八月十八日 春日社中月次連歌。頭役奥家綱。

八月廿三日 神主中西時盛（五十六歳）、※『新修春日社社司補

任記』では六十三歳）死去。

八月廿七日 宗具月次連歌始。

八月廿九日 大乘院にて相山善七連歌興行。発句祐範「荻

すゝき野山はあさき砌哉」。

八月晦日 八月廿九日答礼に、相山善七、祐範へ来臨。故中

西時盛の後任に、中東時広を神主とする長者宣下着。

閏八月十三日 宗叔月次連歌。

閏八月十八日 春日社中月次連歌延引。覚情上人玄桂所用の

ため。

閏八月十九日 景次連歌興行。発句祐範。善春出座。

閏八月廿三日 松林院実政連歌興行。大乘院御内衆へ振舞の

ため。

閏八月廿五日 春日社中月次連歌。頭役千鳥祐紀。

九月十二日 春日社中月次連歌。頭役覺情上人玄桂。閏八月十八日延引分。

九月十三日 一乘院尊政二百韻連歌興行。第一百韻発句一乘院尊政「月こよみちぬもみつる光哉」。第二百韻発句祐範「深山さへ道くらからぬ紅葉哉」。禁中和漢千句に一乘院尊政参会と聞く。

九月十八日 春日社中月次連歌。頭役今西祐途。

九月廿日 若宮右馬允にて茶湯あり。覺情上人、今西祐途、祐範参会。

九月廿一日 金春座小鼓役者の幸五郎次郎正能、百余首添削を祐範に依頼。

十月十四日 蓮成院陽教房に一乘院尊政御成、連歌興行。

十月十五日 正真院経長の父経晴十三回法華同音あり。祐範三首詠歌を廻向。正忌日は十二月廿九日。

十月十八日 春日社中月次連歌。頭役正真院経長。

十月廿九日 祐範、月次連歌を沙汰。連衆、覺情上人玄桂、宗具、永春、宗治、玄左、宗叔。執筆彦六。

十一月十四日 千鳥祐紀子息藤徳殿（祐栄、三歳）烏帽子着。惣社振舞に祢宜衆十五、六人。芸能五番・狂言あり。

慶長十年（一六〇五）東地井祐範、六十四歳

興福寺／寺務 一乘院尊政・権別当 修南院光助

春日社三惣官／神主 中東時広・正預 東地井祐範・若

宮神主 千鳥祐紀

正月十八日 祐範、春日社中月次連歌始を沙汰。

二月十三日十四日 幸五郎次郎正能子息清五郎、祐範へ来臨。二月十八日 春日社中月次連歌。頭役東地井祐長。

二月廿日 永春にて月次連歌。大鳥居花下にて酒宴あり。

三月十八日 春日社中月次連歌。頭役大東延通。

三月廿八日 中東時広、息女（十歳）宮中出仕のため上洛。

四月七日 大東延通月次連歌開闢。発句祐範。

四月十八日 春日社中月次連歌延引。祐範母煩のため。

五月三日 守願所望により、祐範、伊勢物語講釈。

五月十一日 伊勢物語講釈成就。

五月十八日 春日社中月次連歌。頭役中東時広。蓮成院陽教房、祐範母見舞に来臨。連歌の次、夕飯相伴。

六月三日 幸五郎次郎正能、三月十八日夜、夢想和歌一首「八千代へてかはらぬ色を頼にはむかしの女日々にしらるゝ」を得、祐範にて一会興行を頼む。

六月十二日 祐範にて幸五郎次郎正能夢想連歌興行。連衆、社中祢宜衆、覺情上人玄桂。

六月十六日 宗治月次連歌。

六月十八日 春日社中月次連歌。頭役今西祐途。

九月十八日 春日社中月次連歌。頭役向井師隆。

九月十六日 禁中千首興行。人数三十五人。一乘院尊政四十首詠。（慶長千首）

十月十八日 春日社中月次連歌。頭役正真院経長。

十月廿三日 蓮成院陽教房にて振舞あり。覚情上人玄桂、千鳥祐紀、中東時広、今西祐途、祐範参会。茶湯あり。道具拝見。

十月廿五日 妙徳院にて夢想連歌興行。一乗院尊政御成。

十一月三日 若宮右馬允にて茶湯あり。今西祐途、成林坊、祐範参会。

十一月九日 一乗院尊政連歌。

十一月十八日 春日社中月次連歌。頭役祐範。

十二月九日 一乗院尊政月次連歌。発句祐範「水鳥や夜がれし池の朝水」。

十二月十八日 春日社中月次連歌。頭役千鳥祐紀。

慶長十一年（一六〇六）東地井祐範、六十五歳

興福寺／寺務 一乗院尊政・権別当 修南院光助

春日社三惣官／神主 中東時広・正預 東地井祐範・若

宮神主 千鳥祐紀

正月九日 一乗院尊政月次。祐範、煩のため祇候せず。

正月十八日 祐範、春日社中月次連歌沙汰。新祐為25出座。

二月十八日 春日社中月次連歌、二月廿五日に延引。

二月十九日 一乗院尊政月次。

二月廿五日 春日社中月次連歌。頭役覚情上人玄桂。

三月十八日 春日社中月次連歌。頭役千鳥祐紀。

三月廿一日 永春月次連歌。

三月廿二日 祐範にて牡丹花盛の一会あり。連衆、千鳥祐紀、

成林坊、若宮右馬允、野田久左衛門、野田左近、野田孫左衛門。

四月十日 玄左連歌興行。発句祐範。

四月十八日 春日社中月次連歌。頭役中東時広。

四月廿九日 玄左月次連歌。成林坊後園の芍薬を見物。

五月十二日 正桂月次連歌。

五月十八日 春日社中月次連歌。頭役大東延通。

六月一日 一乗院尊政月次開闢。

六月九日 建仁寺両足院梅仙和尚（梅仙東連）、南都下向。覚情上人、祐範、御宿北橋を訪ねる。

六月十二日 建仁寺両足院梅仙和尚、一乗院尊政に題を請う。

御相伴、覚情上人玄桂、乗西堂、宗具、伝吉、新七、祐範祇候。御前にて、梅仙詩一首、乗西堂詩一首、伝吉一首あり。一乗院尊政御詠、各々和歌詠。宗具詠上。

六月十四日 成林坊にて建仁寺両足院梅仙和尚のため振舞、酒宴あり。

六月十五日 宗治、所労本服祝連歌興行。発句祐範「むす苔や花さくさゞれ石の竹」。

六月十六日 宗治、六月十五日答礼に、祐範へ来臨。

六月十八日 春日社中月次連歌。頭役正真院経長。

七月十八日 春日社中月次連歌。頭役奥家綱。

七月廿五日 宗治月次連歌。

八月十八日 春日社中月次連歌。頭役中東時広。

八月廿七日 松林院実政、父明融廿五回追善当座和歌・連歌

興行。出題冷泉為満筆。巻頭一乗院尊政。巻軸冷泉為満。

山科言経、四条隆昌の詠あり。

八月廿八日 持明院中納言基孝（八十七歳）参社。祐範、勅

筆短冊二枚を拝領。和歌の雑談あり、数十首披露聴聞。

九月十八日 春日社中月次連歌延引。頭役向井師隆所勞のため。

め。

九月廿二日 成林坊月次連歌。

九月廿五日 大乘院月次連歌。発句御児様（大乘院信尊）。

十月八日 一乗院尊政、春日社中衆に学問精進を命ず。祐範、

中沼左京元知と内談、祓・日本紀読習を決める。

十月十八日 春日社中月次連歌延引。

十月廿五日 正順にて宗杜廿五年忌追善連歌興行。発句祐範

「世にふるや忘がた見の夕時雨」。

十一月三日 向井師隆死去（三十七歳）。

慶長十六年（一六一一）東地井祐範、七十歳

興福寺／寺務 一乗院尊政・権別当 修南院光助

春日社三惣官／神主 中東時広・正預 東地井祐範・若

宮神主 千鳥祐紀

二月十六日 今西祐途死去（三十七歳）。

三月五日 松林院実政に一乗院尊政御成、連歌興行。

五月廿七日 一乗院尊政、春日社杉屋へ御成。中臣祓講釈、

東地井祐長・中東時昌・千鳥祐紀・大東延通・正真院経

長・奥家綱、抄物を読む。

六月一日 一乗院尊政月次連歌。

八月十五日 一乗院尊政連歌興行。

十月三日 宗治連歌興行。里村玄仲、南都下向、祐範へ来臨。

十月五日 里村玄仲のため、一乗院尊政連歌興行。

十月六日 玄左連歌興行。

十月八日 龍雲院連歌興行。初めて一乗院尊政御成。発句一

乗院尊政。

十月十日 正桂連歌興行。発句祐範。

十月十一日 里村玄仲、春日社の句参・御神供備進を拝見。

十月十二日 宗叔連歌興行。

十月十三日 里村玄仲帰京。

十一月五日 中東時広に一乗院尊政御成、連歌興行。発句一

乗院尊政「吹やいかに深雪のしたの松の風」。連衆十二人、

春日社中衆、覚情上人玄桂、中沼左京元知、貞次。

十一月十日 一乗院尊政にて茶湯あり。喜多院空慶、覚情上

人玄桂、中東時広、祐範、清浄院、金勝院等祇候。

十一月十三日 正真院経長子息烏帽子着（経忠、三歳）。

十一月十六日 大乘院信尊（十五歳、鷹司信房息）得度祝あり。

一乗院尊政御成。庭上舞台にて能あり。大夫、野田祐宜二

蔵。一座はすべて祐宜。

慶長十八年（一六一三）東地井祐範、七十二歳

興福寺／寺務 一乗院尊政・権別当 修南院光助

春日社三惣官／神主 中東時広・正預 東地井祐範・若宮神主 千鳥祐紀

正月廿四日 龍雲院月次連歌。

二月廿三日 祐範、覚情上人玄桂追善の一会興行。

二月廿五日 一乗院尊政連歌興行。

二月廿七日 中東時広、覚情上人玄桂追善連歌興行。

三月廿四日 南市紹喜連歌興行。

五月八日 源氏物語一部講釈成就のため、中東時広にて、中東時昌・東地井祐長一会興行。

五月九日 五月八日答礼に、中東時昌、祐範へ来臨。

五月十六日 里村玄仲所望により、祐範日本紀講釈。

六月十八日 里村玄仲所望により、祐範中臣祓講釈。同座の祐甫は連歌に執心し、関東より下向。

六月十九日 宗治連歌興行。

六月廿二日 東地井祐長連歌興行。発句里村玄仲。連衆十三人。里村玄仲、日本紀講釈答礼に、祐範へ来臨。

六月廿四日 里村玄仲来臨。その後、一乗院尊政月次連歌二百韻に里村玄仲、東地井祐長祇候。祐範は出座せず。

八月四日 金春座小鼓役者の大蔵長右衛門宣安夢想連歌興行。祐範、千鳥祐紀出座。満座後、囃子五番あり。長右衛門子息(宣吉、十一歳)の小鼓。長右衛門、五郎兵衛の一番あり。

八月五日 大蔵長右衛門宣安より、妙徳院の藤樹を使者とし

て、祐範に八月四日の答礼。長右衛門女房は藤樹息女。

八月十四日 中坊左近秀政(飛騨殿子息)奈良奉行となる。

八月廿三日 大東延貞(十三歳)死去。手跡よく執筆を務め、読書に執心。

九月五日 大東延貞追善連歌興行。

十一月十六日 中東時昌子息(時房、三歳)烏帽子着。

慶長十九年(一六一四) 東地井祐範、七十三歳

興福寺／寺務 一乗院尊政・権別当 修南院光助

春日社三惣官／神主 中東時広・正預 東地井祐範・若宮神主 千鳥祐紀

二月廿八日 一乗院尊政、駿河下向。

三月八日～四月十一日 上下遷宮成就(慶長十八年)の御礼に、興福寺より五師明王院尊識房・三学院顕実房、春日社より祐範(正預)、千鳥祐紀(若宮神主)、中東時昌(神主時広代)、関東へ出立。三月十五日、駿府着。四月二日、江戸着。

五月十七日 祐範、関東より帰宅。駿府滞在中、後藤庄三郎光次(徳川家康家臣)所望により、祐範、伊勢物語講釈。

千鳥祐紀、中東時昌、小堀遠州同座聴聞。

五月廿日 里村玄仲、祐範へ来臨。五月廿二日、龍雲院にて奈良町衆へ振舞の連歌興行のため、祐範に発句を所望。

五月廿二日 龍雲院にて里村玄仲連歌興行。

五月廿四日 一乗院尊政にて三吟あり。里村玄仲、祐範。

五月廿五日 祐範、五月廿四日答礼に一乗院尊政へ祇候。その後、龍雲院にて里村玄仲と終日対談。

五月廿六日 里村玄仲帰京。

六月一日 一乗院尊政月次。

八月十五日 一乗院尊政連歌興行。

八月十六日 新薬師奥坊玄左連歌興行。

十二月十八日 覚情上人玄桂第三年追善。命日は十二月廿三日。

慶長二十年（一六一五） 東地井祐範、七十四歳

興福寺／寺務 一乗院尊政・権別当 修南院光助

春日社三惣官／神主 中東時広・正預 東地井祐範・若

宮神主 千鳥祐紀

二月廿六日 新薬師奥坊玄左月次連歌。

三月廿二日 春日社中月次連歌始。

三月廿三日 一乗院尊政連歌興行。

三月廿五日 一乗院尊政連歌興行。

六月九日 祐範、日本紀講釈。遷宮の砌、立願のため。

六月廿一日 一乗院尊政のとりなしにより、東地井祐長、辰

市家名跡を継承する。

七月二日 祐範、大学講釈。

八月十五日 一乗院尊政連歌興行。

八月廿六日 惣珠院へ一乗院尊政御成、連歌興行。

九月廿五日 高安太郎左衛門重政連歌興行。金剛大夫（新太

郎）等の音曲（金剛新太郎ほか）・大藏弥右衛門（虎清）の狂言あり。

十月廿二日 祐範、千座祓沙汰。上下遷宮の砌、立願一七日

参籠、一七日参社五千祓。唯識論一筆書写、日本紀講釈畢竟。

元和三年（一六一七） 東地井祐範、七十六歳

興福寺／寺務 修南院光助・権別当 喜多院空慶

春日社三惣官／神主 中東時広・正預 東地井祐範・若

宮神主 千鳥祐紀

正月十八日力（欠損） 春日社中月次連歌。頭役大東延通。

正月廿五日力（欠損） 惣年寄関才次郎宗清連歌興行。

三月十二日 春日社智足屋にて金勝院連歌興行。連衆、春日

社中衆六、七人。

三月十六日 新薬師奥坊玄左月次連歌。頭役宗治。

三月十八日 春日社中月次連歌。頭役中東時昌。

四月九日 智足坊にて金勝院連歌興行。

四月十日 金勝院、四月九日答礼に、祐範へ来臨。

四月廿五日 十六や景次連歌興行。翌日、祐範に答礼あり。

四月廿七日 南市紹喜夢想二百韻連歌興行。

四月廿八日 南市紹喜、四月廿七日答礼に、祐範へ来臨。

六月二日 野田筑後利房一会興行。源氏物語一筆書写成就のため。発句祐範「窓のうちに風のあつむる蛩哉」。連衆、

中東時広、千鳥祐紀、正真院経長、中東時昌、辰市祐長、

因幡殿長舜、守理、利忠、利房。執筆千鳥祐栄。

六月廿六日 興福寺寺務を喜多院空慶、権別当を松林院実政とする長者宣あり。芸能五番あり。大夫祢宜衆。

六月廿七日 寺務見参につき、能六番あり。祐範不参。

六月廿八日 権別当見参につき、能・乱舞あり。祐範、辰市祐長は不参。

七月十五日 富田延実死去(四十七歳)。

七月廿五日 春日社中月次連歌。頭役辰市祐長。

九月廿五日 関才次郎宗清連歌興行。

九月廿六日 中東時広にて口切あり。

九月廿八日 関才次郎宗清、九月廿五日答礼に祐範へ来臨。

九月廿九日 城戸の堂鎮守遷宮法楽連歌興行。発句祐範「ゆく水のぬさととりぐの紅葉哉」。鎮守三十八所、寺号安養寺。本尊阿弥陀は行基作。平城帝時代創建との縁起あり。

十月四日 春日社中月次連歌。頭役祐範。七月延引分。

十月十八日 中東時広にて月次連歌。

元和五年(一六一九) 東地井祐範、七十八歳

興福寺／寺務 喜多院空慶・権別当 松林院実政

春日社三惣官／神主 中東時広・正預 東地井祐範・若

宮神主 千鳥祐紀

正月十二日 立徳、関東より帰国につき、祐範、米二俵に狂歌を添えて送る。祐範狂歌「我思かけてぞをくる八ノ木の数はすくなき薪なれども」。返書あり。立徳狂歌「いにし

への鈴のたもと引かへて紙衣きつゝかへる古郷」。祐範狂歌への返歌はなし。

正月十三日 立徳、紹意、祐範へ来臨。立徳狂歌「玉づさを

つばさにかけて我たのむ君か方にやかへる雁かね」。

正月廿二日 サカイヤ正知月次連歌。茶湯あり。無準和尚墨

跡、茶入・茶碗等拝見。

正月廿五日 関才次郎宗清連歌興行。

正月廿八日 奈良奉行中坊左近秀政の家老、辻七右衛門良政

連歌興行。発句祐範「梅が香の道しるべする雪間哉」。

正月廿九日 辻七右衛門良政、祐範に正月廿八日の答礼。

二月一日 関才次郎宗清、祐範に正月廿五日の答礼。

三月五日 野田衆花見あり。中東時広参会。野田衆、発円房

久左衛門、三郎左衛門、主水、孫左衛門で興行あり。

三月十二日 大東延通連歌興行。発句祐範「奥しらぬ花吹い

だせ深山風」。連衆、町衆、笠坊、辰市祐長。

三月十六日 宗治月次連歌。

三月廿一日 サカヒヤ正知、三月廿二日連歌興行の発句を祐

範に所望。発句祐範「藤つゝじ咲をや待しをそ桜」。

四月八日 九兵衛連歌興行に祐範、辰市祐長出座。

四月廿二日 金勝院連歌興行。古坊主明禪房廿五廻のため。

発句祐範「郭公夏や半の法のこゑ」。明禪房は古今未曾有

の碩学。命日は廿五日。

五月五日 左太郎、祐範に懷紙清書の礼に、永春と来臨。

五月十四日 紀寺教春一会を興行。

五月十四日 土佐御局（中東時広女、後陽成院後宮）南都下向。

五月廿二日 土佐御局帰京。

五月廿五日 関才次郎宗清連歌興行。

六月廿九日 東大寺中性院にて宗昏連歌興行。父玄斎三回忌のため。

七月廿五日 立德、西国下向のため、祐範一折興行。

九月廿五日 関才次郎宗清連歌興行。

十月廿六日 連歌あり。祐範出座。

十二月廿三日 祐範母忌日。覚情上人玄桂正忌日。

〔元和七年（一六二一）東地井祐範、八十歳〕

興福寺／寺務 大乘院信尊・権別当 松林院実政

春日社三惣官／神主 中東時広・正預 東地井祐範・若

宮神主 千鳥祐紀

正月廿五日 関才次郎宗清連歌興行。連衆春日社中衆。祐範

は出座せず、発句のみ遣る。

正月廿七日 中坊左近秀政祈禱連歌興行。祐範は出座せず、

発句のみ遣る。春日社中より中東時広、千鳥祐紀、祐長出

座。執筆千鳥祐栄。

三月九日 祐範にて牡丹花見あり。音曲あり。人数、野田久

左衛門、同三郎右衛門、同主水、同筑後、雑仕弥左衛門、

高島勘兵衛、若宮甚介、同左近左衛門、北郷喜兵衛。

三月十日 辻七右衛門良政のため喜多院連歌興行。

三月十六日 辻七右衛門良政連歌興行。茶湯あり。

四月一日 一乘院尊覚にて能あり。役者は祢宜。大夫弥三郎は、重時の孫。

四月四日 正桂庵にて、町衆、祐範八十賀の一会興行。発句

祐範「折残る花もてかくす若葉かな」。人数、正順、永俊、良意、宗治、宗利、良佐、正桂、紹意、正知、清次、辰市

祐長、祐範。西天満神前にて大御酒、音曲・舞、和歌あり。

四月十四日 大東延通にて月次連歌興行。

四月十七日 春日社中月次連歌。頭役辰市祐長。

四月廿日 月次連歌。頭役祐範。

五月廿五日 関才次郎宗清祈禱連歌。発句祐範。連衆春日社

中衆。

五月廿八日 善春、祐範八十賀の連歌興行。

六月三日 里村玄仲下向のため一乘院尊覚連歌興行。

六月四日 一乘院尊覚より伊豆殿を使者として、祐範へ六月

三日の答礼。

六月五日 中沼左京元知連歌興行。祐範は出座せず。

六月七日 清次連歌興行。祐範出座せず。辰市祐長出座。

六月六日 祐範、テンカイ塗師屋源三郎のため振舞。相伴、

源三郎孫の長三郎、久左衛門。古代の茶湯の物語を聞く。

六月十三日 里村玄仲来臨。

七月九日 春日社論講屋にて喜多院の振舞あり。任王経、最

勝王経講釈あり。信願上人良遍肖像拝見。

七月廿一日 春日社椿屋にて連歌あり。武家女房衆、社頭鏡の夢想のため。発句祐範「八重櫛かけし鏡や秋の月」。連衆、祐範、中東時広、千鳥祐紀、大東延通、正真院経長、中東時昌、辰市祐長、千鳥祐栄、今西祐定16、大東延種17。執筆富田延倫18。懐紙清書祐長・祐栄各五十額。

七月廿三日 大東延通より、祐範へ七月廿一日の答礼。興行施主より、発句の礼を受領。

八月廿四日 正順房一折興行。永俊、正桂、祐長、祐範出座。宗治は娘産後煩のため不参。

九月廿五日 関才次郎宗清連歌興行。

十月九日 雜司孫左衛門にて振舞。茶湯あり。中東時広、西師治、大東延通、辰市祐長、祐範参会。相伴、久左衛門、三郎右衛門。山中紅葉下にて酒宴あり。

十月十二日 中東時昌にて月次連歌。

十月廿五日 業平塚開のため宗利連歌興行。発句祐範「めで来ての月や有明の朝時雨」。

十一月十五日 祐範連歌興行。町衆へ四月四日八十賀の返礼のため。

十二月十二日 祐範連歌興行。善春へ五月廿八日八十賀の返礼のため。連衆十人。

十二月廿三日 十二月廿二日に大蔵長右衛門宣安連歌興行あり。発句祐範「汲ならず岩井や水のあさ氷」。椿井宅の弘法御作名井の心を詠ず。茶湯あり。高麗茶碗・一休墨絵を

拝見。離あり。弟子衆五番。亭主一番あり、謡は高安太郎左衛門重政。

十二月廿三日 大蔵長右衛門宣安父子、祐範へ十二月廿二日の答礼。

元和八年（一六二二）東地井祐範、八十一歳

興福寺／寺務 大乗院信尊・権別当 松林院実政
春日社三惣官／神主 中東時広・正預 東地井祐範・若

宮神主 千鳥祐紀

正月廿五日 関才次郎宗清祈禱連歌興行。発句祐範。

正月廿六日 中坊左近秀政連歌興行。発句祐範。朝飯後、亭主上落のため、辻七右衛門良政、甚介代官。

正月廿八日 中東時広にて月次連歌。

二月廿五日 千鳥祐栄月次連歌。

二月廿八日 金勝院連歌興行。発句祐範「露をもる木ずゑや下枝いと桜」。

二月廿九日 金勝院、二月廿八日の答礼に、祐範へ来臨。

三月四日 良以、祐範にて連歌興行を所望。

三月十二日 高安太郎左衛門重政夢想連歌興行。大小ハヤシ五番あり。大蔵源右衛門子息（七歳）。大蔵源右衛門一番あり。弥太郎（虎明）兄弟狂言あり。

三月十五日 祐範にて、良以連歌興行。発句祐範「年へてもたち枝は花の若木哉」。良以七十賀の心を詠。

三月廿二日 箔屋多左衛門幸治連歌興行。発句祐範「深く入

て知人えたり山桜」。

三月廿三日 箔屋多左衛門幸治、祐範へ三月廿二日の答礼。

三月廿四日 祐範にて牡丹花盛の振舞あり。野田久左衛門、

三郎右衛門、主水、左近、蕃番、孫左衛門。勘兵衛、甚介、左近左衛門参会。嘉兵衛は、勸進能のため他行。

四月二日 甚介、祐範へ来臨。土佐下国時、連歌昼夜あり。

四月九日 祐範にて月次連歌。金勝院、神人治部永世出座。

四月十九日 大東延通にて月次連歌興行開闢。発句大東延通。

松林院実政出座。

四月十四日 大乘院信尊の使者因幡法眼御房、祐範へ来臨。

祐範、大乘院信尊より八代集書写を命ぜられ、千載集までを進上。また、廿一代集書写の命あり。

四月廿日 春日社中月次連歌。頭役祐範。松林院実政出座。

四月廿八日 宗治、月次の式にて連歌興行。

五月廿一日 正真院経長逝去（三十七歳）。手跡随分、風雅にも器用。

五月廿七日 金勝院所望により、祐範、伊勢物語講釈始。辰

市祐長、千鳥祐栄同座聴聞。

六月二日 祐範伊勢物語講釈成就。七、八日所要のところ繰上。

六月四日 正真院経長二七日追善のため、祐範にて月次衆連

歌興行。発句祐範「月は猶涼しき道のしるべ哉」。

六月廿六日 金勝院にて連歌あり。連衆、春日社中衆。

六月廿七日 良以のため、祐範、源氏抄物を書写。

六月廿八日 金勝院月次連歌始。七、八人町衆懇望のため祐

範出座。辰市祐長同道。

七月廿二日 正桂月次連歌。

七月廿四日 大東延通にて月次連歌。

八月廿四日 金勝院月次連歌。

九月三日 春日社中月次連歌。頭役辰市祐長。

九月十二日 中東時広にて連歌。

九月廿五日 金勝院月次連歌。

九月廿七日 宗利月次連歌。名物の墨跡・花瓶等拝見。

十月十三日 神人治部永世月次連歌。

十一月十日 土佐御局腹の宮、白川御門跡に定まる。

十一月十八日 春日社中月次連歌。頭役祐範。

十二月十日 千鳥祐栄月次連歌。

（かわさき・さちこ 立命館大学非常勤講師）